

屋根の上のヴァイオリン弾き

Fiddler on the Roof

based on Sholem Aleichem stories by special permission of Arnold Perl

Book by JOSEPH STEIN

Music by JERRY BOCK

Lyrics by SHELDON HARNICK

Production on the New York Stage by Harold Prince

Original New York Stage Production Directed and Choreographed
by JEROME ROBBINS

Mr. Robbins' Original Direction and Choreography Reproduced by
WAKATAKE MUSICAL

訳：倉橋健

台本・演出：若竹ミュージカル演出部



東京学芸大学附属養護学校
卒業生・家族・教員、支援者
若竹ミュージカルオーケストラ
指揮：広井 隆

2004年10月31日（日）

開場：13：20

開演：14：00～16：30

会場：東京学芸大学芸術館

屋根の上

東京学芸大学教授 出口利定

「屋根の上で遊んだ経験はありますか？」という問いに、「はい！」と応えられる人は、恐らく人生の折り返し地点を既に過ぎた方に多いのではないのでしょうか。学校の屋根に上って雀の巣を探したり、反抗心から瓦を踏みつけて走ったり、家では蒲団を干すための手伝いで上ったまま、ぼんやりと時間を過ごしたり……。子どもが屋根の上にいる風景は、ある時代には全く違和感無く受け入れられていました。これは屋根の上は、人を和ませたり、詩人にしたり、大人にさせたりと、不思議な磁場を発生している空間であったことを示していると思います。

シャガールの絵から始まった、ユダヤ人の不屈の魂の象徴としての「屋根の上のヴァイオリン弾き」も、「屋根の上」であったからこそ失意の人々の心の支えになり、また観る私達の過去をなつかしむ気持ちを駆り立てるのではないのでしょうか。また物語そのものは家族・愛・民族・・・と、少々重たいテーマであるにもかかわらず、躍動的なダンスや洗練された音楽との見事な融和が多く観客を魅了してきました。若竹ミュージカルによる上演は、昨年到现在2年目となります。演技、歌に益々磨きがかかった舞台をご堪能ください。

若竹ミュージカルにとって、「屋根の上のヴァイオリン弾き」は3つ目の演目であり、初演の「サウンド・オブ・ミュージック」から12年を経過しました。まだ若竹ミュージカルが組織化されていない頃、その先駆けとなったミュージカルは（記憶が？ですが）昭和62年に附属養護学校体育館で上演された「竹取物語」ではないかと思っています。この時の強烈な印象が、今日の若竹ミュージカルに私を誘い込んだ根源となっています。

一緒に観劇に行った就学前の我が子とその友達数人も、私同様、最初から最後までじっと見入っていました。これほどまでに観客を引き付けるものは、一体何なのか？私はそれまではミュージカルというものに、それほどの興味はありませんでした。以来、すっかりミュージカルファンとなり、この若竹ミュージカルの後援会事務局を私の研究室に開設するまでになりました。

若竹ミュージカルは多くの方々に愛され、またご支援いただきながら今日に至っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。今年の「サンライズ・サンセット」は私にとって、これまでとは少し違った想いで響きそうです。

（若竹ミュージカル後援会・事務局）



体験することから演じる楽しみへ

若竹ミュージカル代表 工藤傑史

2001年の夏に練習を始めた『屋根の上のヴァイオリン弾き』が、3年の歳月を経て、若竹版として一つの形になり、今日の発表を迎えました。

3年前、ユダヤ人の迫害を扱ったこの物語が候補に上がったとき、まず最初に「えーっ、こんな暗い作品を本当にやるんですか？」「この作品は若竹には合わないじゃない…」と一部の人から声が上がりました。台本と楽譜を開いて見ると、歌やダンスが話の筋立てをわかりやすくつないでいた前作『サウンド・オブ・ミュージック』と比べ、この作品では登場人物の気持ちの変化までセリフのやり取りでしっかり描かれている…。このセリフのやり取りがどこまでできるだろうか？歌も長いし、難しそう…。だが一方で、若者たちの「自立」のストーリーはぜひやらせてみたい！そんなスタートでした。

いざ練習が始まると心配は無用でした。若竹のメンバーは、第一幕では、古いしきたりを取り合って乗り越え、幸せをつかむ若者たちの自立と結婚のドラマにあこがれ、そして第二幕では、家族や仲間を大切にするアナテフカ村の村人たちの絆にすっかり共鳴し、昔からそこに若竹村があったかのように自然に物語に入っていました。

卒業生たちがこの作品にはまったその一番の理由は、この作品の中で繰り広げられるシーンが、実生活ではなかなか体験できない未知の体験ではあったものの、実はかなりの部分で自分たちの生活の延長線上につながるところでイメージすることができた、あるいはこの作品の中で演じることを通してできるようになったことではないかと思っています。結婚へのあこがれ、恋人との会話、居酒屋での一杯、結婚の約束、厳粛な結婚式やパーティのダンス、そして、物語の後半には親の立場で娘たちへの気持ちを語り、今回の若竹版の台本に最後に加わったシーンが長く人生の苦楽をともにしてきた夫婦が愛情を確かめ合う♪「Do You Love Me?」の歌でした。

公演が近づいた最近のこと、ふと気がつくと、それぞれの配役で役作りを楽しみながら一段と生き生き演じられるようになってきました。（役作りの苦労話は「若竹ミュージカル大好きです」（p12）の中で自分たちの言葉でその一端が語られています。）

若竹のメンバーがこの公演をいっしょにつくる全ての仲間たちと心をつなげて演じる『屋根の上のヴァイオリン弾き』、みなさんの目にはどのように映るでしょうか。どうぞ最後までお楽しみ下さい。

元気のでる若竹ミュージカル

若竹ミュージカル 保護者 津田淳子

1993年（平成5年）学大養護学校開校40周年記念行事にむけて、若竹ミュージカルの灯がともされました。それからの10年いろんなことがありました。

すばらしい先生方のご指導のもと、よい仲間たちと一緒に活動することができ、そのことにより活力や喜びを共有することができました。若竹ミュージカルのメンバーのあすに向かっての気持ちは私自身のはげみであり楽しみであり、最もよい健康法でもあります。

これからも公演での観客の感動を肌で感じ、ともに元気で喜びや、達成感、満足感をミュージカルにかかわる人々とともに、ブロードウェイをめざして歩んで行きたいと思っています。

屋根の上のヴァイオリン弾き

第一幕

プロローグ

♪ 伝統の歌 (TRADITION)
テヴィエと村人たち

第1場 テヴィエの家の台所

♪ すてきな人をみつけてね (MATCHMAKER, MATCHMAKER)
ツァイテル、ホーデル、チャヴァ

第2場 テヴィエの家の外

♪ もし金持ちなら (IF I WERE A RICH MAN)
テヴィエ

第3場 テヴィエの家の中

♪ 安息日の祈り (SABBATH PRAYER)
テヴィエ、ゴールデと村人たち

第4場 居酒屋

♪ 人生に乾杯 (TO LIFE)
テヴィエ、ラザール 他

第5場 居酒屋の外

第6場 テヴィエの家の外

♪ パーチックとホーデルのダンス
♪ 奇蹟の中の奇蹟 (MIRACLE OF MIRACLES)
モーテル

第7場 結婚式

♪ 陽は昇りまた沈む (SUNRISE SUNSET)
テヴィエ、ゴールデと村人たち
♪ ビンの踊り (BOTTLE DANCE)
村人たち
♪ 結婚式の踊り (WEDDING DANCE)
村人たち

～休憩～

第二幕

第1場 テヴィエの家の外

♪ すべてが今はこの手に
(NOW I HAVE EVERYTHING)
パーチック、ホーデル
♪ 愛しているかい？
(DO YOU LOVE ME?)
テヴィエ、ゴールデ

第2場 村の通り

♪ うわさ話 (THE RUMOR)
村人たち

第3場 鉄道の駅の外

♪ 愛する我が家を離れて
(FAR FROM THE HOME I LOVE)
ホーデル

第4場 村の通り

♪ チャヴァよ (CHAVA)
テヴィエ
♪ ツァイテル、ホーデル、チャヴァ、フョートカのダンス

第5場 テヴィエの家の外

♪ アナテフカ (ANATEVKA)
村人たち

第6場 テヴィエの家の外



♪ 歌
♪ ダンス

ストーリーと音楽とダンス

第一幕

プロローグ

帝政の頃のロシア、ここは忘れられたような寒村アナテフカ。そこに住むユダヤ人の主人公テヴィエは妻ゴールデと5人の娘と暮らす貧しいが正直者の牛乳屋。

♪**伝統（しきたり）の歌（Tradition）**　ーテヴィエと村人たちー

テヴィエの口上「屋根の上のヴァイオリン弾き…。飯の食い方、眠り方…ここアナテフカ村にはなにごとにも“しきたり”がある」そして、アナテフカ村に住むいろいろな人が登場する。

第1場　テヴィエの家の台所

お年頃の娘達にとって最大の関心事は結婚。仲人婆さんイエンテが長女ツァイテルに縁談は…。

♪**すてきな人をみつけてね（Matchmaker）**　ーツァイテル・ホーデル・チャヴァー

「すてきな人を！」「お金持ちを！」と、次女ホーデル、三女チャヴァが歌う。しかし長女ツァイテルは、「お金も財産もない私たちはただ我慢だけ…」と二人を諭す。

第2場　テヴィエの家の外

一日のつとめを終え荷車を引っぱって帰ってきたテヴィエは、日課になっている神との対話を始める。帰りが遅いと怒るゴールデを後目に陽気に歌う。

♪**もし金持ちなら（If I Were A Rich Man）**　ーテヴィエー

「もしも金持ちだったら、大きな家を建て、広い庭と、沢山の家畜を飼って、召使いを雇い…」と、つのる思いをテヴィエが歌う。時々現実とのギャップに、「ハァ〜ァ」と肩を落とす。

村人達がミルクやチーズを求めて来、もっばらの噂…ユダヤ人の強制立ち退きのことで騒いでいると、若者（キエフの大学生パーチェック）がみんなで力を合わせようと呼びかける。そしてテヴィエの家の家庭教師に迎えられることに…。

第3場　テヴィエの家の中

ユダヤ教の教えに則り、金曜日の落陽から土曜日の落陽までは家族団欒の安息日。ツァイテルと相思相愛の仕立て屋のモーテルが話しかけてくるがテヴィエは取り合わず、みんなを集めて歌う。

♪**安息日の祈り（Sabbath Prayer）**　ーテヴィエ・ゴールデと家族、村人たちー

「お恵みを神様、娘らの上に。そして、わしら家族に、今までと変わらぬ幸せと平和を…アーメン」。

第4場　居酒屋

妻のゴールデに言われ居酒屋に来たテヴィエに、肉屋のラザールは「あんたの娘のツァイテルが好きなんだよ。」と思い切って打ち明けられる。「なんだって！」とびっくり仰天のテヴィエ。はじめは反対したものの酔いも手伝い、だんだんその気になり、娘との結婚を承諾。あげくのはてに二人でこの縁談の成立を祝って歌う。

♪**人生に乾杯（To Life）**　ーテヴィエとラザールと居酒屋に集う人々ー

「縁談の成立、一族の繁栄、健康と幸福、そうさ To Life ！」。居酒屋に集まった人々みんなで歌いそして踊る。居合わせたロシア人たちの中からも、祝いの歌と踊りが始まる。

♫**To Life-Dance　ロシアとユダヤの踊りの競演**　ーロシア人とユダヤ人の踊りー

そのうち、ロシア人ダンサーがテヴィエと一緒に踊ろうと誘う。最初は戸惑いつつ次第に入り乱れて、ユダヤ人とロシア人が踊り競う。ロシアとユダヤの旋律やリズムが、交差し、重なり、次第に曲を盛り上げていく。最後は、双方入り乱れて踊り狂い、大きく叫んで終わる。「乾杯！」。

第5場　居酒屋の外

上機嫌で居酒屋からの帰り道、テヴィエは巡査部長に呼び止められ、近くこのアナテフカ村で一暴れすると警告される。しかし、テヴィエは婿を授かった喜びを感謝して…乾杯。

第6場　テヴィエの家の外

家庭教師となったパーチェックは「都会では、仲人の世話にならずに若者たちが愛し合い、踊りだって踊るんだ。こんな風に」とホーデルの手を取って踊り始める。

♫**パーチェックとホーデルのダンス（Perchik and Hodel Dance）**　ーパーチェックとホーデルー

「とてもいいわ」としきたりを破ったホーデルはどぎまぎしてしまう。

ラザールとの縁談を聞いたツァイテルは「無理じいしないで」とテヴィエに…。駆けつけたモーテルは勇気を振り絞って「いくらしがない仕立屋だって幸せになる権利はありますよ！」と結婚を申し込む。愛し合う二人に心を動かされついにテヴィエが2人の結婚を許す。

♪**奇蹟の中の奇蹟（Miracle of Miracles）**　ーモーテルー

ツァイテルとの結婚を許され、これはこの世の中で一番の奇蹟だ！と、あふれる喜びを歌う。

第7場　結婚式

今日はモーテルとツァイテルの結婚式。しきたりに則って村人達が総出で祝い歌う。

♪**陽は昇りまた沈む（Sunrise, Sunset）**　ーテヴィエ、ゴールデ、ホーデル、パーチェックと村人たちー

「あの幼子が、こんなに立派になって…」と2人の幸せを願い、感慨深く歌うテヴィエとゴールデ。2人の晴れ姿に、自分たちの将来を重ねて歌うパーチェックとホーデル。

♫**ビンの踊り（BOTTLE Dance）**　ー村人ボトルダンスの人ー

祝宴の音楽が始まり、クラリネットが高鳴る。その音色に誘われて、ワインボトルを頭上に掲げ、ダンサーたちが登場。勇壮な「ボトルダンス」を踊る。

お祝いの品物の披露など“しきたり”通りに進む結婚式にどうを煮やして飛び出したパーチェックは、意中の人ホーデルにダンスを申し込む。祝いの席は大騒ぎになるが、司祭様の「男と女がいっしょ踊ってはならぬとは・・・書いておらんなあ」のことばに力を得て、テヴィエ達も踊り始める。

♫**結婚式の踊り（Wedding Dance）**　ーテヴィエー家・司祭様・村人たちー

司祭様まで踊り出したのを見て、村人たちも男女で一緒に手を取り合って踊り始める。

人々が楽しく踊り浮かれているところへ、巡査部長が部下と共にやってきて会場をメチャメチャにして引き上げる。「テヴィエ、すまん命令なんだ」と告げて去る。残されたテヴィエー家は茫然自失……。

第二幕

第1場　テヴィエの家の外

♪**すべてが今はこの手に（Now I Have Everything）**　ーパーチェックとホーデルー

結婚を誓った2人。「この世の荒波を越え、君とただ2人…」とパーチェックが歌えば、「愛する人をここで待っていた」とホーデルが歌う。

結婚を誓い合った二人は、テヴィエに祝福してほしいと願い出る。テヴィエはしきたりと違う、すぐにも遠くへ行ってしまうパーチェックである・・・と反対し自問自答をする。しかし、かわいい娘は心から彼を愛している…意を決し祝福を与える。喜ぶ二人。

♪**愛してるかい？（Do You Love Me?）**　ーテヴィエとゴールデー

二人の愛に重ねてゴールデとの愛を問うテヴィエ。今さら・・・と思いつつ愛していると気がつく二人。

第2場　村の通り

♪**うわさ話（The Rumor）**　ーイエンテと村人たちー

あのパーチェックが、キエフでつかまり監獄に送られてしまったんだって。噂は噂を呼び、伝言ゲームさながらに話がふくらむ。

それを聞いていたイエンテ「男と女がダンスなんかするからさ！」

第3場　鉄道の駅の外

♪**愛する我が家をはなれて（Far from The Home I Love）**　ーホーデルー

「シベリア？　そんな遠くへ・・・どうして？　ホーデル…」と問うテヴィエに、「パパ、わかってほしいの。私の気持ちを…」とホーデルが歌う。悲しくも決意に満ちた歌。汽車の警笛が、遠くから聞こえ、とうとう別れの時が来る。

第4場　村の通り

♪**チャヴァよ（Chava）**　ーテヴィエー

三女のチャヴァが、こともあろうにロシア人のフォートカと一緒にになると言って家出。悲痛な叫びをあげるテヴィエ「チャヴァは死んだんだ！」。そして愛する娘チャヴァを慈しみながら歌う。

後半、幻想場面になり旋律にのって三姉妹が踊る。

「パパ、あたし達のこと認めてほしいの。」チャヴァの願いに、「かわいい娘の願いを聞き届けたい、だが民族に背くことはできない。」悲痛な叫び「だめだ、チャヴァ！」（♪トラディション）が流れる。

第5場　テヴィエの家の外

♪**アナテフカ（Anatevka）**　ーアナテフカ村の人々ー

たった一枚の紙切れで生まれた土地を追い出されるなんて・・・。住みなれたこのアナテフカ村を立ち去らねばならない。切ない思いと不安、そして未来への願いを込めて……。

第6場　テヴィエの家の外

それぞれの土地を求めてアナテフカ村を去る人たち。テヴィエもゴールデ、四女シュブリンツェ・五女ビルケを伴い、荷車を引く足取りも重く村を去る。その後に、テヴィエの影であり心でもあった屋根の上のヴァイオリン弾きが続く……………。

♪　**歌**　ー歌う人ー

♫　**ダンス**
（演出部：山本正子、三輪禎子）

キャスト



生活を一手に引き受け
汗を流し働いて
女房と5人の娘を養うテヴィエ
家族揃って



この村にいるロシア人たち



このアナテフカにはこんな人がいる
仲人ばあさんイエンテ
村人が敬愛する司祭様
ヴァイオリン弾きに 肉屋と居酒屋の主人達
貧乏な仕立屋とキエフから来た大学生

テヴィエの家族

テヴィエ (牛乳屋)	植田 久
ゴールデ (その妻)	大野 優子
ツァイテル (長女)	小池 美奈子
ホーデル (次女)	木村 智子 (第1幕)
	坪上 義子 (第2幕)
チャヴァ (三女)	佐藤 佳代
シュプリンツェ (四女)	河西 美保子
ビルケ (五女)	小林 美保

ロシアの人たち

巡査部長	坂井 智明
フォートカ	宮本 裕也
ロシアの人たち	上田 徹、田口 雅之
	長田 翔平、根本 友己
ロシア人テノール	絹川 文仁

「アナテフカ」の 村人を 紹介します



♪ みつつで字を読んで
十歳で商売
花嫁がきれいならいいなあー♪
と息子達

♪ 針仕事はお母さんに
おむこさんはお父さんに！♪
結婚を夢見る村の娘達



みんなが休めるように
きれいで静かな家庭をこしらえるお母さん
ちょっぴりうわさ話が大好き
お父さんも加わって



村人たち

アナテフカ村の人たち

モーテル (仕立屋)	伊藤 公一
パーチック (学生)	栗山 和宏
イエンテ (仲人ばあさん)	鈴木 真奈
ラザール (肉屋)	小林 竜一
ラビ (司祭)	小島 諭
モールチャ (酒屋の主人)	小林 憲治
司会者	戸田 尚幸
ヴァイオリン弾き	
相磯 岳史	

小野寺 邦江
春日 貴代志
近藤 さと子
近藤 由里
清水 志保子
白川 優子
鈴樹 裕一
清野 友規
谷山 いづみ
津田 愛子
坪上 義子
藤江 真二郎
盛生 正子

相磯 キミエ
伊藤 敬子
岩本 仁
上田 恭子
小野寺 恵江
河西 正子
加藤 富美子
五條真由美
近藤 由紀子

坂井 照子
清水 美恵子
霜田 浩信
白川 博子
鈴木 文雄
清野 三千子
谷山 洋子
津田 淳子
戸田 幸裕

戸田 玲子
橋本 明子
福井 滉
福井 晴美
藤江 もと子
三輪 禎子
村上 卓郎
盛生 桂子

今回出演しない仲間たち
甲原 信一、小林大祐、吉森 春生、吉森 美佐子

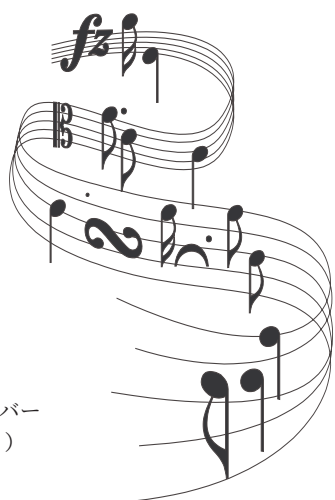


練習風景

指揮：広井 隆

- ヴァイオリン：大野 晴子、是永 三詠子、渋川 泰子
末成 智子、丹澤 絵美、野口 智子、萩原 真理
淵本 晶子、森永 佳代、渡辺まき
- ヴィオラ：会田 さつき、遠藤 江里子、小松 拓巳
- チェロ：島田 栄子、高瀬 薫、高橋 知子、田中 博、西山 絢子、真篠 久美子
鷺頭 まり子
- コントラバス：石井 温子、大串 清文、菊地 佐絵子
- フルート：佐藤 千瀬、古城 夕起子
- オーボエ：渡部 沙織
- クラリネット：鈴木 宏治、鳴瀬 絵理
- ファゴット：佐藤 寛治
- ホルン：飯島 友香里、西田 みゆき
- トランペット：赤澤 秀行、富永 光孝、林 真一
- トロンボーン：谷口 良二、戸邊 安代
- パーカッション：坂井 直樹、庄司 和明
- キーボード：山本 正子
- 電子ピアノ：立山 直子

公演当日出演しないメンバー
米田 倫之（トランペット）



スタッフ

- 台本・演出（演出部）：工藤 傑史・三輪 禎子・山本 正子・根本 友己・大野 優子・伊藤 敬子・小島 訓子
- 演技指導：佐々木 襄・大野 優子
- 歌唱指導：山本 正子・加藤 富美子・橋本 明子・工藤 傑史
- ダンス指導：根本 友己・三輪 禎子
- 大道具：黒木 辰男（製作指導）・小島 詔・霜田 浩信・岩本 仁・小島 謙太郎・五條 真由美
- 照明：劇団「漠」美留町 絵理・野原 隆史・佐藤 絵里加
- 音響：越川 徹郎
- 衣装：坂井 照子（衣裳プラン）・小林 美沙子・春日 三枝子 他 お母さん達
- 小道具：お母さん達
- 記録：若竹ミュージカル映像製作部・村上 卓郎（ホームページ担当）・相磯 嘉雄・近藤 和子
- 運営委員：津田 淳子・植田 千代子・小林 美沙子・近藤 由紀子
伊藤 敬子・藤江 もと子・小島 訓子・河西 正子
大串 清文・谷口 良二・大野 優子
根本 友己・工藤 傑史・三輪 禎子・山本 正子



広井 隆（指揮者）

東京芸術大学指揮科卒業
三石 精一、金子 登、エルヴィンボルン、渡辺 暁雄、山田一雄 諸氏に師事。
1974 年 安宅賞受賞。 日本指揮者協会会員。 日本演奏連盟会員。
1992 年より、東京学芸大学附属養護学校に於ける東京学芸大学管弦楽団「音楽教室」
で指揮を執られ、児童、生徒、保護者より絶大な信頼をよせられている。
1996 年より、『ウェスト・サイド・ストーリー』『サウンド・オブ・ミュージック』に続き、『屋
根の上のヴァイオリン弾き』で若竹ミュージカルの指揮ならびに指導をいただいている。

佐々木 襄（バス歌手）

東京芸術大学声楽科卒業
日本に数少ない本格的低音歌手として国内外で演奏活動やテレビ出演などに活躍されている。東宝ミュージカル『屋根の上のヴァイオリン弾き』（森繁久弥主演）に出演。若竹ミュージカルの公演ビデオを見て、何かお手伝いすることはないかと声をかけて頂いたことから交流が始まり、演技指導をいただいている。



絹川文仁（テノール歌手）

東京学芸大学、東京芸術大学大学院オペラ科修了
これまでに、モーツァルトオペラの諸役をはじめ、「道化師」「マクベス」「外套」「蝶々夫人（ミラノ初演版）」「ヴェニスの恋（G.サリヴァン）」「キャンディード（バーンスタイン）」など、数多くのオペラ、ミュージカルに出演し、活躍している。
以前、東京学芸大学附属養護学校のクリスマスコンサートに出演していただいた。
一昨年の小金井祭公演に続き今回も「人生に乾杯」のロシア人テノール歌手として出演して下さる。



若竹ミュージカル 大好きです

わたしは、わかたけミュージカルがだいすきです。

れんしゅうのある日は、はやくおきます。ひろいせんせいにほめられると、とてもうれしいです。これからせりふやうたをはっきり大きいこえをだしてやれるようにがんばります。(津田愛子)

「愛するわが家」であこがれの気持ちをだすのがわからなくて、山本先生にうかがって、いっしょうけんめいやっています。(坪上義子)

父親テヴィエを演じます。今年3月静岡公演の時は思い出すのもつらいけれど、肺炎入院の中で点滴を受けながらの公演は忘れることが出来ない。本当にみなさんに心配をかけ申しわけなかったと反省しています。ロシアの迫害を受けながらも、しきたりと神のみ心を大切にテヴィエは家族を守っている。このテヴィエをととても気に入っています。小金井公演を必ず大成功させたいと思っています。(植田久)

結婚式の時のダンスが好きです。スカートをふまれるので短くしてもらいました。マッチメーカーの歌で「若いハンサム」と「ハンサムで立派」の言葉をまちがえてしまいました。正しく歌うように気をつけます。(小池美奈子)

ミュージカルの練習は朝のミーティングで友達の話ときくのが一番楽しいです。ボクは歌とセリフと動きをがんばっています。動きがむずかしいので何度も工夫して練習しています。みんなの前でできたときとてもうれしいです。(小林竜一)



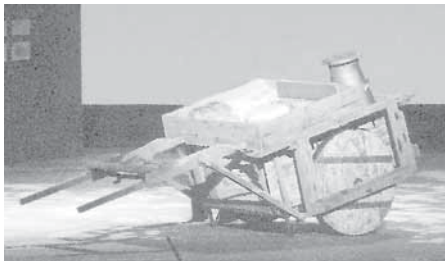
あしをけがしたけれど、ロシアのダンスを後輩におしえてがんばります。(田口雅之)

マッチメーカーのコーラスで一番低く歌うところがむずかしかったです。お母さんとコーラスすると上手にできても学校ではツァイテルにつられてしまいます。耳を押さえるか先に声を出してごらんといわれたけれど思うようにできませんでした。(木村智子)

とちゅうでせりふがふえて、それをまちがえないようにおぼえました。本番はがんばります。(近藤さと子)

「こんばんわ」おおきなこえでがんばります。(上田徹)

私が一番見てみたいところは、トラディションとアナテフカのところです。ダンスのところも好きです。楽しいからです。全ぶ好きです。歌はお母さんと練習しています。いつもおふろの中で歌っています。(小野寺邦江)



わたしは村人をやります。セリフは大きなこえでいえるように、がんばります。一ばんすきな場面は、さいごの村人たちのわかれのところです。(近藤由里)

私はイエンテ役をなんとか上手にやろうと頑張っています。

イエンテは、やさしい世話好きなおばあさんなので、その気持ちを表現出来るように頑張っています。少しでもイエンテらしさが、みんなにわかって貰えたら嬉しいです。(鈴木真奈)

わたしはむら人をやります。おかあさんもむら人になります。いつもいっしょにテープをきいてうたやセリフをれんしゅうしています。みんながみにきてくれるのでがんばります。わたしはミュージカルをするのがとてもたのしくて大好きです。(盛生正子)

僕の役はモートルです。大変だったのはテヴィエさんがこわいので、ツァイテルと結婚の約束をしているとなかなか言えないところです。弱い心と強くなる心をセリフで言うのがとてもむずかしかったです。お客様に見てもらいたいのは「きせきの歌」とダンスです。(伊藤公一)



ぼくは、ボトルダンスをおどります。家でもペットボトルをつかって、CDの音楽をかけて、お母さんとなんかいても練習しました。衣しょうもかっこいいし、上手におどって、皆さんから、たくさんはく手をもらいたいです。(清野友規)

バイオリンひき、とっても気に入っています。楽しんでがんばっています。(相磯岳史)

ぼくは司祭をします。司祭様は女の子と手をつないでおどってびっくりしてハンカチをポケットからだしておどります。司祭様はダンスがすきです。ぼくもダンスがすきです。テビエさんが上といったらぼくは上を見ます。(小島諭)

巡査部長の坂井です。

今の世の中には、とかくゴタゴタがあるゴタゴタをおこす連中がな。わしはなぜ同じ人間同士が、こんなにあらそわなきゃならんのか、わからんがな。

テロや戦争は、いやです。平和になってホットしたいです。(坂井智明)

さいしょのトラディションのうたでは、ぼくはしさいさまといっしょにやります。ぼくはけっこんしきのところがすきです。「日はのぼりまたしずむ」のうたをきいてください。みんなでがんばります。(藤江真二郎)

私は結婚式の場面がすきです。みんなで楽しくダンスがおどれるからです。(小林美保)



私は村人役をやっています。大きな声でセリフを言うようにしています。私はうたやおどりが大好きです。「居酒屋」の場面で「人生にかんぱい」をうたっておどるところが一番楽しいです。(谷山いづみ)

ぼくは、一幕のパーチックもやります。セリフがふえました。家で携帯にセリフを入れて、どこでも練習が出来るようにしました。何回も練習して工藤先生にほめられました。うれしかったです。公演の日も頑張ります。(栗山和宏)

「乾杯」の歌が大好きで、毎日のようにビデオのその部分だけをくり返し見て歌っています。(小林憲治)

一生けんめいセリフをれんしゅうしました。言いかたがおかしいと言われて、なんどもなんども言ってみました。なかなかできなかったけどすこしづつ言えるようになりました。「汽車にもるし」のところです。(河西美保子)



僕はミュージカルの中で歌をうたうのが大好きです。そしてカンパイの時の場面がとても好きです。皆で楽しくダンスができるのでとても楽しいです。(鈴樹裕一)

ロシア兵から、村人になりました。セリフがあるのでがんばります。(春日貴代志)

少しダイエットして、やせました。もう少しがんばります。セリフは、お母さんと一緒におぼえました。「私達がここで得たものはなんだっただろう」というこのセリフが一番好きです。(白川優子)

僕がお客様に見て頂きたいのは、結婚式でやる司会の役で、セリフが長くてむずかしかったです。村人の役で新聞をみながらあわてる事や、さびしい事をセリフにしたいです。(戸田尚幸)

屋根の上のバイオリン弾きを練習してから3年たち、みんな上達してきました。私が一番苦労した事は、音程が低くならないようにする事とダンスです。小金井祭、武蔵野市民文化会館での公演に向けて、たくさんのお客様に喜んでもらえるよう頑張ります。(佐藤佳代)

練習中はほとんど歌いませんが、リズムに体を合わせ、演奏というより舞台上の出来事を実体験のように感じ、心から楽しんでいるようです。笑顔ばかりでなく恐がる様子をみせて、と親は欲を出しています。(清水志保)

フォートカのセリフをはっきりと大きな声で言えるように練習します。チャヴァとおどるダンスがたのしいです。衣裳をつけると気持ちがロシア人になります。若竹ミュージカルが好きです。(宮本裕也)

新人の長田デス。慣れ親しんだ学校での練習とは言え、まだ勝手がわからずにボンヤリしている事が多いように見受けられますが、皆さんに暖かく受け止めていただき、何とか初舞台を踏むことになりました。(長田翔平)



台風の来襲が多かった今年的小金井祭公演に臨んで

演出部 根本 友己

屋上屋ということばは「無駄なことをする」との喩えで使われますが、今年のように台風で屋根を壊される被害が多かったことを考えると「万全の備え」とも言えます。特に舞台の安全ではそうです。今回も何よりも一番大事にしたいことです。また、個人の思いでは今回の舞台の準備では「無駄」に感じる時、場面があったと思います。これを「認められていない、自分の生活の中でこの活動の価値が低下し、疎外感・対立感を感じ・・・」とどうなるのでしょうか。「無駄や見えないものを如何に考えるか」が大事なのではと、公演を前にして考えています。

根を張る木や草花は、実や花をつけることができるよう、そして子孫を残すために見えない地中で岩をも砕いていきます。私たちの活動も自分たちの花も実もある生活だけでなく、無駄と思われようと同じような活動を広がるように株を分け種を蒔いていきたいと考えています。台風にも負けない根を張れる土壌を開拓するのが今回のホーム（小金井）公演だと思います。

上の目指すところは、同じような仲間たちがこのような活動を起こせるような天井の星となることです。意味がわからない光の点を古代の羊飼いたちが星座の名を付けてから、方角を知り、季節・暦・時刻・気象がわかる天文学になったのです。私たちの「G o 2 ブロードウェイ」という星座は、希望・夢なのでは？ そしてそれは10年以上継続させ、みんなの共通な意味・思いとして心の中に実現しているのでは？ と感じたいのですが・・・。

ヴァイオ、倍を活動の成果に期待することは難しいものです。今回の公演が個人の力や組織の力をすぐ倍増するものではありません。一歩後退しても、隊列に留まり二歩進んでいく時を待つ。伝えようとする力、分かろうとする力、善意を信じる力、音楽の力、全て継続の力などを信じていく。一人では活動を成し遂げた感動は生まれません。仲間がいて、仲間を作り、分け合うこと。これを舞台の中心において進むことこそが一つの目的です。

リン 凜とした心をお互いに持ち続けることがその土台になればなりません。ラグビーで「フォア ザ チーム……一人は全員のために、全員は一人のために」と言われる、それでトライが生まれる。ラグビーのウィングは花形ですが、そこに如何に有効なボールを集められるかがトライに繋がり、チームの勝利をもたらします。これを私たちだけでなく、今回の「屋根の上の・・・の公演で見て応援下さる方々に感じていただき、共有したいのです。

弾き 引きこもりがちな心に灯をともしのは仲間の柔らかな思いです。公演で今回デビューする人も自分がやってきたことに自信を持って、「足らなくてもいい、それはこれから身につけていく」と、堂々と表現できることを願っています。和を中心においたストーリーとも言えるこの「屋根の上のヴァイオリン弾き」は私たちの活動でもあり、一番願っていることでもあります。そして一時離れている仲間もまた加わることができますように。

仲間がいて一緒に今回もできた。離れ離れになるテヴィエ達の心情がしみじみ分かった。この舞台に上がる心構えとして記すようにとの題から、思い巡ったことです。

From 若竹ミュージカルオーケストラ

いまから１０年前、１９９４年の小金井祭。ここ芸術館ホールで、若竹ミュージカルが初めて公演しました。

そのとき、東京学芸大学管弦楽団の有志が、若竹ミュージカルに集まり、

それから、ウエスト・サイド・ストーリー・オーケストラを経て、若竹ミュージカルオーケストラに。

賛助出演、そして共演、いまではひとつの舞台を創り上げる若竹ミュージカル仲間です。

この１０年という時間を感じられればと考え、

これまで中心となってきた仲間（９３年学芸大学入学）、今日の公演が初めての（本当に久しぶりの）出演となる仲間、

それぞれの仲間から、いまの思いを寄せてもらいました。

楽器／名前

- ①１０年前の出来事を
- ②１０年間での重大出来事を
- ③１０年後の目標を
- ④この公演のお気に入りの場面



今日の公演が初めての（本当に久しぶりの）出演となる仲間・・・

ヴァイオリン／渋川泰子

- ①１０歳です。あの頃わたしは地元栃木の小学校のスクールバンドでトロンボーンを吹いていました。ぜんぜん上手くなかったけれど、とても楽しかったことを覚えています。
- ②小～中～高～大と進学してきました。まさに青春ストリートです。テニスに明け暮れた中学時代、バイオリンと出逢い、楽しかった女子高時代、そして現在に至ります。その中で重大な出来事といえば、親元を離れて大学近くで一人暮らしを始めたことでしょうか。おかげで夜遅くまで学校でバイオリンを練習できます！？
- ③１０年後までの目標は、「自分で稼いで食っていけるようになる」ことです。教育実習にも行き、進路希望調査票提出の締め切りが迫る今日このごろ。真剣に１０年後のことを考えてしまいます。やっいて楽しいこと、魂の欲することを仕事にできていればシアワセなんですが…
- ④「Do you love me?」の場面の、少し甘酸っぱい感じが好きです。わたしも将来、こういう夫婦のやり取りをするのかななんて予想してみたり（笑）「あなたのために毎日食事を作り、子育てをしてきたのに、いまさら愛だなんて」というような歌詞がありますが、してあげることができる幸せを忘れたくないし、愛する人の喜ぶことが自分の幸せになれるような、そんな日常をいつか送りたいです。

コントラバス／石井温子

- ①１０年前というところちょうど中学校に入学した年。それまでは幼稚園も小学校も担任の先生は女性だったのにこのとき初めて男性の先生に。しかも背が高くて若い英語の先生。別に何があるわけでもないのにドキドキしていたのを憶えています。
- ②MY 楽器を購入したこと！高校のときから貯めていた貯金を使い果たしてしまいました。 親が聞いたら卒倒するので、値段は報告していません。
- ③そのさらに何十年後、今回のデヴィエとゴールドのように「愛してるかい」「なんだって」といった会話をするような…そんな相手を見つけること。
- ④結婚式のダンスの場面。楽しい音楽と、楽しい踊りで、演奏する側も、出演者も、観客も、みんなが楽しめる場面だと思います。

フルート／古城夕起子

- ①１９９４年…浪人していた年です。年は越えますが、阪神大震災のため、特別入試が組まれたりしていました。
- ②江戸川区に採用されて、早起き長距離通勤していること？

③時間に余裕をもって過ごせるようになること。

④たくさんの人々がぐるぐるまわっていた曲。

これまで中心となってきた仲間（９３年学芸大学入学）・・・

ヴァイオリン／是永三詠子

- ①当時、音教委員をやりつつ、１０人程度で初若竹演奏会をしたこと。附属養護との音楽教室を企画する委員会に所属していて、大学１年時に司会をしたことなども影響したのか、養護学校との活動にどっぷりはまっていた。音楽教室での感動と何とも言えない一体感にひかれたのだと思います。
- ②念願の一人暮らしを始めたこと。合わせて就職したのですが、環境がかわり、気持ち的なゆとりができました♪大学時代、埼玉大宮からよく通ったなあ、と思いつつ、現在の住まい探しにおいては東久留米までの経由も考慮に入れました。
- ③テレビエ一家のように、大きな家族になること。一人暮らしをしたがっていた私ですが、三人だけの家族なので、にぎやかにできればなあ、と。
- ④二幕の「Do you love me?」のソロ曲が好きです。とてもしっとりとした場面で、気持ちの伝わる、いい曲ですね。オケもしっとりと演奏したいです。

ヴァイオリン／萩原真理

- ①大学２年生のときといえば、好きなだけバイオリンを弾いていた記憶があります。夜中まで練習をして、その後みんなでガストでお茶をして・・・若竹でサウンドオブ・ミュージックをチロリアンの衣装をつけて演奏したのも、いい思い出です。
- ②学生時代とそんなに変わった気はしていませんが、いくなれば教員になったこと、でしょうか。
- ③１０年後にも、楽器を弾いてたいです。私生活では、希望としては２児の母になりたいかな。
- ④TO LIFE （理由）乾杯！というときのみんなの顔が素敵だから。あと、弾いていて楽しい気持ちになる曲だから。

チェロ／田中博

- ①練習しても思うような音も出ず、チェロを弾くのをやめようと本気で思っていた年でした。ここでやめていたらどうなっていたかなあ…。それがいつの間にやら１０年。１月楽器に触らないと「寂しいなあ」と思うようになりました。といっても、まだ思うような音は出ませんが…。
- ②就職して家庭を持って、何とか生きている自分がいることでしょうか。
- ③もっともっと、うまくなりたいです。
- ④「うわさ話」がとっても好きな曲です。舞台とアンサンブルしているなあ、と感ずるので。

コントラバス／大串清文

- ①大学２年生。１０年前の小金井祭でも、この若竹ミュージカルでコントラバスを弾いていました。その時来た衣装、チロリアン風ベストが妙に似合っていたのか、いまは静岡市在住の仲間（やーん）に「チロリン」というあだ名を命名されました。
- ②大学卒業、就職、結婚、出産立会い、子育て・・・いろいろありますが、２児のパパになれたこと。子どもたちとの時間が元気の源です。
- ③変わらず、コントラバスを弾き続けていること。
- ④「サンライズ・サンセット」。この屋根の上のヴァイオリン弾きは、全幕を通してコントラバスのピッチカート（弦を指ではじいて音を出すこと）が魅力的です。そのなかでも、「サンライズ・サンセット」は最初から最後まで、コントラバスのピッチカートが会場いっぱいに響きわたります。

クラリネット／鳴瀬絵理

- ①私は、若竹ミュージカル第１回目の公演は出演していないのですが、今から１０年前、附属養護学校の４０周年式典の時、音楽教室の実行委員、そして司会を経験したことが、この若竹ミュージカルに参加するきっかけとなったのだと思います。
- ②あれから早１０年。先日、附属養護学校の５０周年を迎え、あのときまだ学生だった私が、社会人となった

今でもこうして続けていられるのは、たくさんの人との出会いとそこで得た多くの感動があったからだと思っています。

③これから10年先のことを考えるなんてそら恐ろしいのですが、『音楽』という心のオアシスをずっと大切にしていきたいなあ。

④今回の『屋根の上のヴァイオリン弾き』はクラリネット奏者としては、とても難しい曲なのですが、密かな野望としては、ボトルのついた帽子をかぶってボトルダンスを踊りながらステージの上で演奏したかったです。それは実現しませんでした。相方がステージ上でソロを披露しますので乞うご期待！

これまで、このオーケストラで出会った仲間は、約130名。

これからも、ひとつひとつの出会いを大事に、
この若竹ミュージカルで、たくさんの仲間と一緒に、
ひとつの舞台を創り上げていきたい思いでいっぱいです。



《何が私達に感動を与えるのか》

支援者 福井 滉・晴美

私達は今年1月から若竹ミュージカルに参加させてもらっている新米の団員です。卒業生の父母でもなく・・・支援・指導する立場でもなく・・・若竹ミュージカルにとっては“変な？団員”なのかもしれません。

私達が若竹ミュージカルの舞台を初めて観たのは昨年11月2日＜小金井祭＞での上演でした。案内状は卒業生の父母の一人であるPさんから頂きました。当日は他の用事と重なってしまい、途中からの鑑賞となりましたが、舞台が進むにつれて感動の渦が身体中を駆け巡りました。彼らの真摯な演技は美しく気高くさえありました。最後に客席と一緒に歌う「陽は昇りまた沈む」の時は私達は感涙にむせぶ事に忙しく殆んど声を出せませんでした。

“いったいこの感動は何なのだろう？”と何度も私達の話に上りました。いろいろ考えを巡らせてみた結果、それは、彼らの無限の可能性に、驚きや尊敬を感じた事が感動に繋がったのではないかと・・・。

上演後しばらくして、Pさんからの“ミュージカル やってみませんか？”との魅力的な‘ささやき’に、すぐさま乗ってしまったのが現在の私達です。

練習に参加するようになって感じたことがあります。それは卒業生みんながとても素直な美しい心を持っていることです。思いやりに溢れていて誰かが言葉につまっても、お互いに助け舟を出したり励ましたりします。また、歌やセリフや演技がうまくいったときには惜しめない拍手と感嘆の言葉を贈ります。

これらの場面に遭遇したとき、いつも私達の心は洗われた気がします。それに卒業生達は礼儀正しく挨拶は欠かす事はありません。新参者の私達にもすぐに親しく接してくれるようになりました。

彼らの、こういった純真な心が、舞台でのひたむきな演技を自然に引き出しその一生懸命さゆえに客席の感動を呼び起こすのでは？と、日々の練習の中で感じたりしています。私達も彼らの足を引っ張らないよう、一生懸命頑張りたいと思います。

若竹ミュージカルの沿革

1993.	7	東京学芸大学教育学部附属養護学校 開校40周年記念若竹ミュージカル 発足
1993.	8.1	第1回オリエンテーション 演目決定 『サウンド・オブ・ミュージック』
1994.	1.15	ラジオジャパンにて1月9日の練習風景放送
	1.16	若竹会新年会にて、歌を披露
	1.22	東久留米市にぎやかカーニバル出演（於 東久留米市中央公民館）
1994.	6.15	開校40周年記念式典行事参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
	8.6～7	合宿練習（於 養護学校）
	10.16	若竹まつりにて『サウンド・オブ・ミュージック』上演
	11.3	小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール） 『サウンド・オブ・ミュージック』公演 東京学芸大学管弦楽団と共演 （NHK ニュース及び「NHK こどもの療育相談」に取りあげられる）
	12.1	東久留米市にぎやかカーニバル出演（於 東久留米市中央公民館）
1995.	6	若竹ミュージカルを上演する会発足
	9	9月より正嘉昭先生から演技指導を受ける
	11.2	福祉文化学会主催福祉文化総大会参加（於 横浜ラポール）
	12.1	座談会－ミュージカルが「癒す」もの－（演劇と教育 1996年3月号掲載）
	12.9	東久留米市にぎやかカーニバル出演（於 東久留米市中央公民館）
1996.	3	演目を『ウェスト・サイド・ストーリー』に決定
	4	東京学芸大学管弦楽団OB・OG及び現役の有志により ウェストサイドストーリーオーケストラ編成 指揮者に広井隆先生を迎える
	8.3～4	オーケストラとの合宿練習（於 養護学校）
	10	若竹まつりの若竹おどりにて歌と踊りを披露
	11.3	小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール） 『ウェスト・サイド・ストーリー』コンサート ウェストサイドストーリーオーケストラと共演
1997.	1	広報紙GO2ブロードウェイ創刊号発刊
1997.	5	オーケストラとの交流会（於 奥多摩）
1997.	8.9～10	オーケストラとの合同合宿練習（於 養護学校） ウェストサイドストーリーオーケストラを 若竹ミュージカルオーケストラと改称 舞台監督に宮上直也氏（故人）を迎える
	10.11	『ウェスト・サイド・ストーリー』公演（於 三鷹市公会堂）
	11.2	小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール） 『ウェスト・サイド・ストーリー』公演
	11.27	’97山の都ふれあいコンサート参加〔於 山梨県民文化ホール） 『ウェスト・サイド・ストーリー』公演
1998.	5.3	オーケストラとの交流会（於 養護学校）
	6.14	日本発達障害学会33回研究大会特別公演（於 東京学芸大学芸術館ホール） 『ウェスト・サイド・ストーリー』コンサート
	8.8～9	オーケストラとの合同合宿練習（於 養護学校）
1999.	3.7	『サウンド・オブ・ミュージック』コンサート（於 東京学芸大学芸術館ホール）
	5.2	オーケストラとの交流会（於 養護学校）
	8.7～8	オーケストラとの合同合宿練習（於 中央アルプス駒ヶ根）

陽は昇り また 沈む

Sunrise Sunset

2000. 1.10 東京都盲・ろう・養護学校総合文化祭「舞台芸術・演劇祭」特別出演
『サウンド・オブ・ミュージック』（第1幕より）上演（於 東京芸術劇場中ホール）
舞台監督に黒木辰男氏を迎える
- 3.5 『サウンド・オブ・ミュージック』（第1幕より）公演
（於 所沢市民文化センター・ミューズ）
- 8.19～20 オーケストラとの合同合宿練習（於 養護学校）
- 10.9 『サウンド・オブ・ミュージック』 全幕公演
（於 所沢市民文化センター・ミューズ）
- 11.5 小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
『サウンド・オブ・ミュージック』 全幕公演
2001. 1 次回演目を『屋根の上のヴァイオリン弾き』に決定
5. 4 『サウンド・オブ・ミュージック』 全幕公演
（於 りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館・劇場）
- 8.11～12 オーケストラとの合宿練習（於 養護学校）
- 11.3 若竹ミュージカル映像制作部による「ドキュメント新潟公演」完成
- 11.4 小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
「ドキュメント新潟公演」上映会&出演者と語る会
- 2002 8.10～11 オーケストラとの合同合宿練習（於 養護学校）
- 11.3 小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
「屋根の上のヴァイオリン弾き」コンサート
- 2003 8.9～10 集中練習（於 養護学校、ルネ小平）
- 11.2 小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
「屋根の上のヴァイオリン弾き」第一幕公演
- 2004 1.10 若竹会「新年会・成人式」にて、「屋根の上のヴァイオリン弾き」から一部を披露
（於：成美教育文化会館 グリーンホール）
- 3.28 「しずおかおもちゃ図書館開館 20 周年記念」コンサートに出演
「屋根の上のヴァイオリン弾き」全幕公演 （於 静岡市民文化会館大ホール）
- 8.7～8 集中練習（於 養護学校）
- 10.24 広報紙 G02 ブロードウェイ 97 号発刊

いつも おんぶしてた
かわいい 小さな子

いつか大きくなった
ふたり
二人

こんなに きれいになって
立派になったのか
きのう 昨日までは 小さな子が

ひ のぼ 陽は昇り また沈み
とき 時うつる

あさ やがて 朝がくれば
はな 花もすぐひらく

ひ のぼ 陽は昇り また沈み
とき 時うつる
かな よろこび 悲しみを
なが のせて流れゆく

くち 口には出して 言えない
きょう 今日の よろこびよ

て やさしく手を取り合っ
あ いて
いつまでも

ふたり しあわせそうな二人
むす かたく結ばれて
ひ いつの日にか 私たちも

ひ のぼ 陽は昇り また沈み
とき 時うつる
かな よろこび 悲しみを
なが のせて流れゆく

〒 203-0004

東京都東久留米市氷川台 1-6-1

東京学芸大学附属養護学校内（電話 0424-71-5274）

若竹会

若竹ミュージカル

<http://homepage3.nifty.com/wakatakemusical/>

中表紙のヴァイオリン弾きの絵は伊藤公一君の作品です。



2004 年 3 月 静岡公演より

トラディション

トラディション！ トラディション！ トラディション！
トラディション！ トラディション！ トラディション！

生活を一手に引き受け
汗を流し働いて
女房 息子 娘たちを
養うのは誰？
それは パパ パパ
トラディション
それは パパ パパ
トラディション

みんなが休めるように
きれいで静かな
家庭をこしらえるのは
誰でしょう？
誰でしょう？
それは ママ ママ
トラディション
それは ママ ママ
トラディション

3つで字を読んで
10歳で商売
花嫁がきれいなら
いいなあ
それは 息子 息子
トラディション
それは 息子 息子
トラディション

針仕事はお母さんに
お婿さんはお父さんに
それは 娘 娘
トラディション
それは 娘 娘
トラディション

トラディション！ トラディション！ トラディション！
トラディション！ トラディション！ トラディション！